

国造振興会とのタウンミーティング

日 時 令和6年2月24日（日）18時～19時

会 場 虚空蔵会館

参加人数 26名

1. 開会

2. 国造振興会会長ご挨拶

3. 井出市長市政報告

○はじめに

・今日は震災のことをまず初めにお話をし、その後昨年の大雨のことを振り返り、最終的には令和6年度当初予算についてお話したいと思っている。ただ当初予算というのは2月27日に議会が開会し、3月21日の閉会時に承認をいただかなければ執行できないので、その点をお含み置きいただければと思う。

○令和6年能登半島地震

・1月1日16時10分にマグニチュード7.6、能美市でも震度5強を観測する大きな地震が発生した。この地震で140名を超える方がお亡くなりになられ、もしかして皆さん方のご親戚や友人でお亡くなりになった方もいらっしゃるかもしれない。心よりお悔みを申し上げお見舞い申し上げたい。

・能美市では住宅の被害があったという罹災証明書の申請が1,000件以上、被災証明書という住家以外の納屋や車庫、事業所、会社関連では約600件の申請があった。市の施設もいたるところで被害を受け、緑が丘の市道の法面が崩れて陥没したり、下水道が被害を受けたりし、その復旧費用にまずは5億1700万円の予算を充てて今一生懸命やっている。

・市民の皆様からいろんなお問い合わせがあり、当初にはブルーシートがないかというお声が結構多かった。いろんなお声をお聞きして対応できるワンストップ窓口を開設した。

・被災地への支援も行っている。支援の内容は大きく分けて二つあり、一つは人的、物的そして車両の派遣です。保健師や消防団等は何回も被災地に行っていたし、救急車、消防車、給水車、パッカー車（ゴミ収集車）等も派遣させていただいた。

・もう一つの大きな支援が避難者の受け入れ。市内では旅館、ホテル、それから辰口福祉会館等を中心に、今150名ほど滞在をしていただいております、その他にも被災者のご親戚や友人のご自宅に身を寄せていらっしゃる方は約100名ぐらいと聞いている。

・避難所にお越しいただくと、洋服や食事を提供したり、今後どうしていくかというようなご相談、あるいは具合が悪い場合には保健師が対応することができるが、ご自宅に身を寄せていらっしゃる方はなかなか把握できないこともあるので、現在も避難者生活サポート窓口を開設し、能美市へ避難されている全ての皆さんに相談に来ていただけるような仕組みを作って対応している。

・ペットも一緒に避難される方もいらっしゃる。やはり愛犬、愛猫は家族同様ですので避難者と一緒にあって、我々もサポートをさせてもらっている。

・ありがたいのは、ボランティアの皆さんがすごく活躍してくれている。女性会や防災士会も、何かできないか、何かやらせてほしいと言ってくれていろんなことをしてもらっている。

・ネットワーク会議を開き、どんなことをやっていただけるか、避難者はどんなことを要望してるかを上手くマッチングさせて、対応するようにしており、運動不足になることから、ヨガをやっていただいたり、悩みがあっても素直に話せない、テレビを見ていてつらくて悲しくてずっと泣いてらっしゃる、そんな方もたくさんいらっしゃるの、そんな方たちを巡回してもらい、傾聴相談ということでお一人お一人のいろんな話を聞いていただいて、それを我々のところにフィードバックしていただくこともある。

・高齢の方が多いので、病院に行きたい、買い物に行きたいと思っても車がないので送迎ボランティアをやったり、散髪をしていただいたり、物作りをしながら、少し癒しの時間ももってもらったり、いろいろなことをやりながら、まもなく2か月が経とうとしている。

・テレビ新聞の報道を見ると、復旧復興には相当時間がかかるだろうという思いをしている。我々能美市とすると被災地が復旧復興を果たすまで、最後まで心に寄り添いながら応援、支援をしていきたいと思っているので、どうか国造地区の皆さんもご理解ご協力をいただいて、支援をいただければと思っている。

○能美市を取り巻く課題

・一昨年は大雨があったが、加えてこの大地震、それから大津波への対応も求められてきている。人口減少、少子高齢化がずっと続いている状態。市民力・地域力の低下も昨年申し上げたが、壮年団や女性会の人数が減ってきている。これを何とかしなければいけないと思っている中、今回の避難者の方への皆さんの対応を見ていると、まだ能美市は市民力地域力が衰えていない。これだけ多くの人たちが支えてくれるんだと改めて感じている。

・お陰様で企業誘致が大変好調で地元の企業も大変好調なことから、引き続きこの人材不足に対してどう人材を確保していくか。社会インフラも老朽化しており、小中学校、体育館、道路、橋等々、いろんなところが傷んできておりこれらをどの順番でどうやって直していくかを今検討している。

・市税が好調で、令和元年度に初めて90億円を超えた。昨年度は過去最高額の90億9000万円、令和5年度もおそらく90億円を超える見込みをしている。これは企業誘致が好調なことから、固定資産税や法人市民税が市に入る。また地元の企業が好調なことも税収を押し上げている。税収が安定してきていることを、今申し上げた課題に対して、どう一つ一つきちんと落とし込んでいくかが我々に課せられた役目だと思っている。

・いよいよ北陸新幹線が3月16日に全線開業する。そして加賀海浜産業道路に昨年橋が架かった。福島グランパークという工業団地に大きな会社が4社入り、民営のこども園ができ、空いていたところに大和ハウス工業が進出をしてくれ、お陰様で17ヘクタールが全部売れた。

○令和6年度予算編成案

・令和6年度の当初予算案は275億6000万円と過去最高となった。これまでも事業施策の7本柱が全部移住定住の促進に繋がるようにやっている。自治体の勢いというのはいろんな指標で図れると思うが私は人口増だと思っている。人口増には自然増と社会増の二つがある。お亡くなりになる人よりも生まれてくる赤ちゃんが多いと自然増。引っ越して行く人よりも引っ越してくる人が多いと社会増。日本全国どこも今、自然減。お亡くなりになる人を減らすために皆さんにいかに健康でいてもらうか、それから1人でも赤ちゃんを産みやすい環境をどうつくっていくかをやっていこうと思っている。

○防災減災対策

・令和6年度は、五つの方針と目的を掲げて予算編成を行っている。一つは防災減災対策。地震があったことを踏まえて、家を改修したりブロック塀を改修する際の補助額を増額していく。1月1日には能美市で初めて大津波警報が出る大きな震災があった。市民の皆さんにそういった災害の情報をどう伝えるか、あるいは避難所にどう行ってもらうかをもう1回今見直しを始めた。ハザードマップも今までは紙ベースだったが、大きな地震があったときに紙を持って家から出る人はいないので、スマートフォンにそういった情報を入れられるように変えていく。

・一昨年的大雨では内水被害が多かった。能美市に降った雨は直接海に注がない。いかに梯川や手取川に能美市に降った雨を流していくかがポイントになる。和光台等の丘陵地や北陸先端科学技術大学院大学のある丘陵地から流れてきた雨をどうやって手取川に流していくか、どこにどんな雨が降ってどんな流れ方をするかを十分に調査して対策を施している。

・今年は手取川の洪水があってから90周年を迎える年でもある。あのときの教訓を忘れず、今後しっかり対応していこうといろんなことをやろうとしている。鍋谷川では国・県の協力を得て、堆積土砂を大雨の後すぐにとって、そして今は拡幅する準備にもう入っている。梯川は流れが緩くてなかなか海に水が入っていない、梯川の幅を広げてもらわないと、水が戻ってきて流れない現象もあり、こちらの対策も一生懸命国・県に取り組んでもらっていて、同じような雨が降っても二度と同じ被害が起きないように、できるだけ早く取り組んでいこうとしている。

・宮竹用水の停水にも取り組んだ。これまで大きな雨が降っても宮竹用水は手取川から水を取って田んぼ等に流していた。今後大きな雨が降った場合には、手取川からの水を止めてもらうことになっている。そうすることで宮竹用水ではなく宮竹排水となり相当効果があることがわかった。もう一つやろうとしているのは田んぼダム。たくさん雨が降った場合に、全部川で受け取められないことから、田んぼをいわゆるダムとして一時的に水を貯めてもらおうと考えている。ただ田んぼには農作物があって、農作物が駄目になってしまうこともあるので、我々がどんな保障をしていけばいいのか、能美市のどのあたりを田んぼダムにすればいいかの検証を始めていこうと考えている。

・それから能美市の公式LINEも始まっている。避難指示などの情報や能美市からいろんなお知らせをする場合に、防災行政無線だと皆さんその場にはないと聞き洩らす、たくさんの情報だと全部聞きとれないこともあって、今文字で流すようにしている。去年大雨があ

ったときにも、文字で情報を流して欲しいという要望があった。ぜひ国造地区の皆さん全員登録していただけるように、お友だち申請をしていただければと思う。

○市民力・地域力の強化

・令和7年2月に市制20周年を迎える。様々な式典を考えており、各町会・町内会にもそれに向けて準備をしていってもらいたい、一緒にお祝いしてもらいたい、それから今回の地震でいろんなところで困っていることに少しでも何か支援ができないかと、町会・町内会へ補助をする制度を考えている。各町会・町内会で活用してもらえればと思っている。

・旧能美電の線路跡にある健康ロードは、全長が約16キロある。この道を整備して皆さんに歩いてもらえるようにしたいと考えている。2025年秋の完成を考えており、その時はちょうど能美電が開通して100年、廃線から45年、市制20周年という節目の年であり、そこに合わせてやろうとしている。

・教育交流パートナー事業といって、沖縄県恩納村と交流を始めようとしている。沖縄県恩納村には、北陸先端科学技術大学院大学と学術協力に関する基本協定を締結した沖縄科学技術大学院大学という大学がある。学校同士だけではもったいないので、我々自治体同士も交流を深めようということ。恩納村は、万座ビーチがあるサンゴの町で沖縄で一番観光客が多い町。その中学生と能美市内の中学生の交流を考えてるので、募集した際にはぜひ手を挙げてもらえればありがたい。現地に行くだけでなく、Webでも交流しながら沖縄の歴史・文化・自然を学んでもらい、将来的には沖縄の子どもたちに能美市へ来てもらい、国造地区で雪合戦や雪だるまを作ってもらったりできないかと思っている。

・中学生の学校給食を今年度の2学期から無料にし、3学期からは小学生も無料にした。来年度は4月から無料にしたいと思っているが年間2億5000万円かかるので、これをいかに捻出するかが課題となってくる。

・健康寿命の延伸のために、がん検診やDWIBS（ドゥイブス）検査、それからPET検査の検査費用を助成する。また、虫歯にならないように、保育園でのフッ化物洗口の支援をやろうとしている。

○地域ブランドの確立

・ウェルビーイング指標という指標がある。市民がどんなことに対して能美市に不満を感じているか、何が不便と感じているかを調べる仕組み。その結果、能美市民は買い物、飲

食、遊び、娯楽、移動・交通が弱いと感じている事がわかった。ということでこれを何とかしないといけないと、今やろうとしている。その内の一つが、買い物・飲食ということで、福島グランパークに商業施設が来る予定。

・今日の会場である国造地区も大変魅力的な場所なので、いろいろとリニューアルをしている。まず和気あいあいの里にアドベンチャーガーデンができた。それから、バーベキュー場も少し改修をした。結構な人が来ており、駐車場が足りなくなったことから、少し駐車場を広げていく。芝生広場も綺麗にし、皆さんのお力もいただきながらいろんなイベント等もさせてもらいたいと思っている。こくぞう里山公園も傷んでいるところがあるので綺麗にしていく。和気の岩のドッグランは、大型犬にとっては狭いと言われているので整備していく。

・蟹淵が一昨年大雨で大きな被害を受けていて簡単には直せない。直すためにはまず水路を確保しないとまた同じようなことになってしまう。そうすると、別の経路を作っていた方がいいんじゃないか等、いろんなことを考えていかないけないので、今年1年間かけて専門家の皆さんと相談をして、蟹淵をどうするかを決めていきたいと思っている。

・里山の国造地区を応援する動画を作った。ぜひ皆さんにも見ていただきたいと思っているので、DVDをお配りするつもり。この動画をいろんな場面で流してもらい、里山のことが好きになって、そしていつかまたここに戻ってきたいと思ってもらえるような、そんなきっかけ作りになればと思っている。

・辰口フラワーセンターの跡地は、今はなかなか思うように進んでいないが、能美市の一等地だと思っている。いろいろとアプローチをしながら、ここに進出してくれる人を待っている。

・能美市の公式キャラクターだけでなく、応援大使「シナモロール」が大人気で、このシナモロールを使った新しい商品作りも募集している。いろんな形で使い道が広がってくると思うので何かアイデアがあればおっしゃっていただければと思う。

・特産品を作っていくためには農業も大事。農業をしっかりと支援していかないと特産品も出てこない。農業というのは、食料の自給率の面や、日本の原風景の保存と考えても、しっかり支援をしていくことが必要だと思っているので、引き続きやっていきたい。

・企業誘致が好調な分だけ、そこに働く人たちに能美市に住んでももらわないと駄目。移住のためのいろんな支援制度も設けてあり、和光台5丁目もおかげさまで今好評分譲中となっている。金沢大学の跡地も、皆さんのご協力をいただいて土地も取得した。これを大切

にしながら開発していきたいと思っている。適時適切にその場所を見ながら開発をしたい、そんな思いをしている。

・3月16日に新幹線が開業し、I R いしかわ鉄道も開業する。能美根上駅を中心にいろんなイベントをやっていく、そういった情報も能美市公式LINEに登録をしていただくと全て情報が入ってくるので、ぜひお友だち登録をしていただければと思う。

○ゼロカーボンシティ

・2013年に排出したCO₂を2030年には半分に、2050年にはゼロにしようとやっている。例えば、古紙をリサイクルセンターに持ってくるとポイントがつく。ペットボトルをやめて、ウォーターサーバーから水を汲んでもらうとポイントが付く。そのポイントがいろんなところで使えるような仕組みを今始めていくのでぜひ参加いただければと思う。

○インクルーシブシティ構想

・インクルーシブというのは、誰1人取り残さない、仲間外れにしないという意味で、地域共生社会のことで、それをデジタルの力を使ってやっていこうとしている。これまでもいろんなことやってきたが、来年度は大きく六つある。

・一つ目はスマート物流。インターネットで注文すれば、公民館まで運んでくれる、そんなことをやっていく。

・二つ目はライドシェア。2種免許を持ってない人に運転してもらい、利用者が行きたいところに連れていってもらおうということをやろうとしている。

・三つ目は公民館でのオンライン診療。例えば高血圧や糖尿病の方は1ヶ月に1回、かかりつけ医に行って診察してもらい薬をもらっている。ただ、なかなか行けない時や待ち時間も長い場合に、例えばこの虚空蔵会館に機械を置いて、お医者さんに行かなくても診察をしてもらえて薬がもらえる。その薬を取りに行かなくても、スマート物流で持ってきてもらう、ということを今やろうとしている。

・四つ目は電子カルテの共有化。

・五つ目は見守り。空気清浄機やエアコン等のIoT家電を使っていく。今の空気清浄機は、おはよう、ご飯食べた、とか喋る。そして空気清浄機にいろんなセンサーが入っていて、その部屋の空気が何か変だということや、健康状態もわかるようになってきていて、その機能を使って安否確認をやろうとしている。生存が確認できないときにはコールセン

ターに電話が行って、駆けつけるようにする。あるいはご自身のご家族を登録しておいて、そこから連絡を入れてもらえるような、そんな仕組みを考えている。

・最後六つ目は、デジタル通貨、地域通貨。市内の例えばのみ商業協同組合に登録しているお店で現金を持って行かずにポイント等でお買い物ができる。そのポイントは先程申し上げたような、ゼロカーボンシティを通して行った活動で付与されたポイントで、市内のお店で買い物ができるようにしようと今考えている。

○おわりに

・頑張ろう能登ということで、ぜひ皆さんにもご理解ご協力をいただき、復旧復興のためにご支援をいただきながら、こちらもいろんな被害があったと思うが、しっかりと対応していきたいと思っている。

4. 質疑応答

質問①

【参加者】

・和光台4丁目、5丁目の子どもたちの通学路として通っている道があるが、横断歩道がない。警察に相談をしたら、横断歩道を新設するのは予算の関係上、維持や設置にお金がかかるので少し難しい。和光台内の横断歩道の移設ならできると言われたが、今横断歩道があるところも子どもがいるので、新設の方が良いと思っている。町会からは要望を出しているが市のほうからも警察に話をしていただけないか。

・地震の対応について。私はサッカーを教えているが、サッカーでは和倉によく行く。和倉の方のグラウンドは結構被害を受けていて、向こうのサッカーをやっている子どもたちはグラウンドが無く困っている。今までは和倉で多くの大会が開かれていたが、その大会が加賀方面に流れて来ていて、能美市でも天然芝グラウンドを少し開放してもらえないかと思っている。物見山や物見山陸上競技場、根上サッカー・ラグビー場をもう少し使いやすくして、能登のスポーツをやっている人たちの復興ということで、能美市も応援していただけたら嬉しい。

【市長】

・横断歩道は私が把握している限りは、PTAと学校の先生と地域の人たちが危ない場所を全部確認をして、そして重点的なところは毎年対応をしていると聞いているが、一度確認する。

・サッカーラグビー場は県の持ち物でもあるので、県にもそういった形で使えないか、こちらから投げかけてみたいと思う。物見山のグラウンドは陸上競技場なのでスパイクの使用が嫌がられることもある。芝が痛まないよう、小学生等のあまりハードに動かない年代でも一度検討してみたい。

質問②

【参加者】

・能美市の各学校に防災倉庫があるが、中身が空だったりしてあまり物が入ってないので、整備をしていかないといけない。何をするにも予算がかかるが、ダンボールベッドやテント等は必要かと思っている。今後は町会や地域のお金で少しずつ充填していきたいと思っているが、市からの補助制度、町単位は補助制度があると思うが、できたら地域や団体で何かをしようとするときも、補助制度を設けていただければありがたいと思っている。

【市長】

・大規模な地震が起きたときにどんな物資がどれくらい必要なかをもう1回見直さないといけないと思っている。今回能登を見ていると、やはりトイレが不自由だということから、簡易トイレの数を増やさないといけないという思いもしていたり、全体的に見直しをしないといけないと思う。

ただ能美市に5万人いて5万人全員避難するときに、例えばテントやダンボールベッドを置けるスペースがあるのかということもあるので、どれぐらいの被害があったときにどこに何日間ぐらい滞在するかも想定しながら、どんな物資をどれぐらい持つかを考えていきたい。

・学校にある備蓄倉庫の場所は、体育館からはちょっと遠い所にあったりする。実際に避難された場合に、物資を取りに行くのもすごく不便だと思っている、そんなことも来年度

予算を取って少し時間をかけながら見ていきたいと思っている。また防災士の皆さんからいろいろなアイデアを出してもらえればと思う。

質問③

【参加者】

・金剛寺は国と県が決めた急傾斜地になっていて、対策工事をする事になっている。ただ登記の関係で現在工事がストップしている。その間に、昨年の大雨や今回の地震が起きているので、市からも工事を早く進めるよう声をかけてほしい。また、町民の自己負担があると聞いているが、最初に話を聞いた時から物価高などで負担金額が上昇している。高齢者が多く年金生活者が多いので高額な自己負担は厳しいので、負担をできるだけ軽くしてほしい。

【市長】

・1回調べてみる。

質問④

【参加者】

・福島工業団地の商業施設はどんな形のものができるのか気になっている。災害時に津波などから避難できるような、そういう設備が整ったものができるといいと思っている。

【市長】

・今回の地震でも、根上総合文化会館のエアコンが故障して、CIメディカルに避難した。今はまだ、どんな商業施設が建てられるかわからない。今回の地震で能美市で観測された津波は20センチだと言われている。あの規模の地震で、能美市にどれぐらいの津波が来るのかを、おそらく気象庁ももう1回見直すはずだと思っている。そんな状況も見ながら、市民の皆さんにとっても、安心して過ごせるような施設になるよう、こちらからも大和ハウスさんに伝えていきたいと思っている。

5. 閉会